

第11回 京都から発信する政策研究交流大会

特別テーマについての説明

1 テーマ「芸術文化と都市・社会」について

芸術作品、芸術文化施設・事業など、芸術文化はその「社会的効果」として、芸術・文化による社会的包摂（貧困や障害・差別などの理由により社会的に排除されている人々に社会参加の機会をひらく機能）、地域経済を活性化する「経済的効果」など、都市・社会に対して影響を与える力を持っています。つまり芸術文化は、都市・社会と密接に関係していると考えられます。

については、芸術文化の振興が都市・社会に与える影響、関わりを意識し、どのような政策が芸術文化を高め、かつ、都市・社会にいい影響を及ぼすかという観点が求められ、例えば以下のような取組が必要になると考えられます。

（※ 以下は例示です。自由な切り口での政策研究を期待しております。）

- ・歴史的な都市景観の保護など、既存の魅力ある資源を活かした地域の経済活性化
- ・地域住民と芸術文化を学ぶ学生が一緒になり、芸術文化を活用した地域のまちづくり
- ・過疎地において芸術文化を創造しやすい環境を用意し、アーティストの移住促進
- ・芸術文化が社会的包摂の機能を果たすための環境づくり

2 テーマ「高齢化と都市・社会」について

先進国において、平均寿命の伸びと出生率の低下により、60才以上の人口はどの年齢層よりも急速に伸びており、「高齢化」は避けることのできない問題だと言えます。

については、今後どのような政策を実現させることによって、高齢者を含めた多くの人々にとって暮らしやすい都市・社会をつくることができるか、といった観点が重要となり、そのためには、例えば以下のような取組が必要になると考えられます。

（※ 以下は例示です。自由な切り口での政策研究を期待しております。）

- ・高齢者家族の医療や介護に関わる負担軽減のための支援強化
- ・高齢者が地域社会に参加し、多世代の人と関わりを持つ環境づくり
- ・高齢者がこれまでに培ってきた就労経験や能力の活用
- ・様々な施設や交通機関など、高齢者が住みやすい生活環境の整備